

建設用クレーン

グローバルなニーズに応えるフルラインナップ

製品の 特長



何十トン、時には数百トンを超える重量物を軽々と持ち上げ、安全にスムーズに移動させるのは、大型の建設用クレーンだからできる仕事。鉱山や油田などの資源・エネルギー開発プラント、ビルや橋梁、大規模な都市開発などの過酷な現場でハードに働く建設用クレーンにとって何より重要なのは、安全性と信頼性です。

事故はいうまでもなく、ちょっとしたトラブルによるダウンタイムもお客様のビジネスに大きな影響を与えてしまいます。極寒のカナダや酷暑の中東などの過酷な作業現場でこそ、信頼性から選ばれているのがタダノの製品です。

売上高

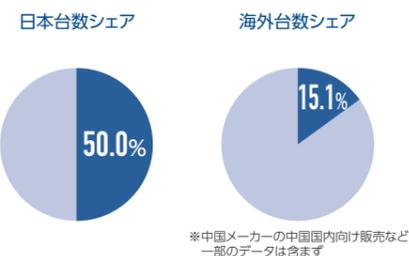
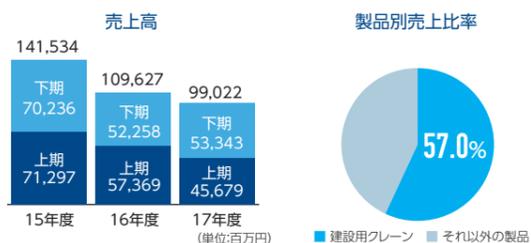


日本向け売上は、拡販に注力したものの、需要の減少と機種構成の影響もあり、381億7千9百万円(前期比84.8%)となりました。

海外向け売上は、主力のラフテレーンクレーンの

需要減少により、608億4千3百万円(前期比94.2%)となりました。

この結果、建設用クレーンの売上高は990億2千2百万円(前期比90.3%)となりました。



トピックス

2017年8月24日、海外向け2軸キャリアのラフテレーンクレーンでは当社最大の「GR-1200XL/1100EX」を発売

海外市場、特に北米における原油・ガス等エネルギー開発の現場では、付設するプラント等の大型化に伴い、その建設またはメンテナンスに使用される移動式クレーンの大型化・長尺化と共に、狭所への進入性に優れた大型ラフテレーンクレーンが求められています。2軸キャリアとしては、タダノ最大の吊り上げ能力とロングブーム化を実現、かつコンパクトな当モデルは、2017年4月に開催されたコネクスボ展(米国ラスベガス)でも大きな反響がありました。

2017年10月19日、海外向けトラッククレーン3機種「GT-750EL/600EL/300EL」を発売

アジアや中東などを中心とした海外のトラッククレーン市場では、近年50トンクラス以上の吊り上げ能力のニーズが高まり、併せて高速走行や悪路走行にも応える高い走破性が求められています。「Crafted in Japan」の同機への信頼は高く、各市場で受注が進んでいます。

LINEUP

ラフテレーンクレーン

タダノの技術の粋を集めた主力製品。海外では大規模プラントの建設・メンテナンスにも使われています。狭い現場でも機敏に対応できるコンパクトさと機動力、操作性を備えており、世界中で高い評価をいただいています。

日本の建設用クレーンの中心機種で、日本の総需要の93%、北米総需要の55%を占めます。

日本向け:
13トンから70トン吊りの6機種
海外向け:
13トンから145トン吊りの8機種
(日本、海外向け共に国内で生産)



生産拠点:志度工場(日本)



GR-700N



ATF400G-6

オールテレーンクレーン

都市開発や高速道路、橋梁といったインフラ整備の現場などで活躍する大型クレーンです。遠距離走行性^(※)に加え、ステアリングの特徴から小回り性にも優れています。不整地から高速走行まで対応できる走行性を実現するとともに、数百トンの荷を難なく吊り上げる能力を備えています。日本の総需要の6%、欧州総需要の87%を占めます。

日本向け:
100トンから550トン吊りの6機種
海外向け:
40トンから400トン吊りの10機種
(日本向けの一部製品は国内で生産)

(※) 欧州では分解走行が不要ですが、日本での一般道走行時には分解搬送が必要です。



生産拠点:タダノ・ファウン GmbH(ドイツ)

トラッククレーン

汎用または専用トラックに架装するクレーンです。日本では高速道路走行が可能のため、レッカー機能を持たせて緊急時に機敏に対

応。海外では高速走行性をもつ大型クレーンとして使われ、メンテナンスに対するコストパフォーマンスの高さから特に新興国で人気です。

日本向け:
13トンから35トン吊りの3機種
海外向け:
30トンから75トン吊りの6機種
(海外向けの一部製品はドイツで生産)



生産拠点:志度工場(日本)



GT-750EL

伸縮ブーム式クローラクレーン

広大なアメリカで、泥濘地を含めたさまざまな環境で効率よく作業するように開発されました。クローラキャリアの低重心の利点を活かし、荷を吊ったままの走行にもその強さを発揮。高さに余裕のないトンネルやプラント、オイルタンクなどの建設現場でも活躍します。

海外向け:
27トンから120トン吊りの7機種



生産拠点:タダノ・マンティス Corp.(米国)

※海外のみ販売(米国で生産)。



GTC-1200

車両搭載型クレーン

使いやすさと高機能で選ばれる

TM-ZT500

製品の 特長



車両搭載型クレーン(カーゴクレーン)は運輸業や造園業、建設業など、幅広い業種のお客様の荷役作業にお使いいただいている一番身近なクレーンです。カーゴクレーンに求められるのは、最少の人数で、積載・運搬・荷下ろしを安全に、簡単に行える操作性です。タダノでは安全性と効率を高めるために、クレーンの状態を見ながら操作できる液晶デジタルラジコンを早くから採用。また、クレーン業界で初の「アイドリング・ス

トップ」機能を実現し、省エネ・環境性能を飛躍的に高めることに成功しました。

カーゴクレーンのほかにも、さまざまなお客様のニーズに対応できる「目的別製品」も製造しています。たとえば、道路と鉄道の線路を走行できる「軌道陸上兼用車」など、安全性や効率を高めて社会やお客様の課題解決に貢献するさまざまな目的別製品で、LEの新たな領域を開拓しています。

売上高

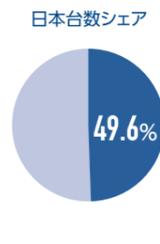
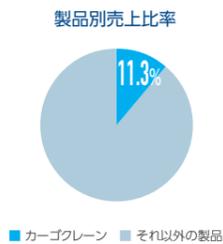


日本向け売上は、排ガス規制の反動減により年度後半にトラック需要が減少する中、拡販に注力し、179億7千万円(前期比98.8%)となりました。

海外向け売上は、東南アジア・中東向けの販売体制

の整備に注力し、17億6百万円(前期比118.5%)となりました。

この結果、カーゴクレーンの売上高は196億7千7百万円(前期比100.2%)となりました。



トピックス

2017年5月、タイにカーゴクレーン販売強化のための合併会社を設立

当社は、タイでのカーゴクレーンの販売強化を目指すため、タイの代理店であるItalthai Industrial Co., Ltd. (イタルタイ・インダストリアル) との間で、製品の販売・サービスを行う合併会社を設立しました(資本金は5千万タイバーツ)。

グループとしてカーゴクレーンの海外販売を強化する中で、大型クレーンを中心にタダノの代理店を長く務めてきたイタルタイ・インダストリアルとの間で現地合併会社を設立したことにより、当社のメーカーとしての製品ノウハウと、同社の販売ノウハウを融合し、きめの細かい市場ニーズへの対応と、更なるシェアアップを目指します。

LINEUP

カーゴクレーン

日本向け

日本国内では1963年にTMシリーズを発売以来、多くのお客様にカーゴクレーンをご愛顧いただいています。

生産拠点は2007年に開設した香川県・多度津工場です。

環境にも配慮しており、ZE600シリーズは初のアイドリングストップ機能をオプション設定しました。また、法改正を受けて2019年3月から安全装置の設置が義務づけられる予定です。



生産拠点:多度津工場(日本)



ZE290シリーズ

海外向け

2012年にタイに当社として初のカーゴクレーンの海外生産拠点を開設しました。販売先としては、東南アジア、中東を主要なターゲットとしています。

現在は、吊り上げ能力10トンクラス、8トンクラス、5トンクラスの計3機種のカーゴクレーンを生産し、市場の状況を見て順次生産機種を拡大する予定です。今後の需要動向により第2工場の建設も視野に入れています。



生産拠点:タダノ・タイランド(タイ)



その他目的別製品

カーゴクレーン以外にも、多種多様なニーズに対応する製品を開発しています。千葉工場では、自動車運搬車(スライドキャリア/スーパーセルフローダ)を製造しており、日本国内有数のシェアを誇っています。また「軌道陸上兼用車」は、現場近くの踏切でタイヤから鉄輪へと移動手段を切り替え、スムーズに現場へ急行できる鉄道工事用の作業車です。ほかにも、重機などの建設機械を積載し運搬できる産業用車両運搬車(セルフローダ)や、海上で活躍する船舶専用油圧クレーン(マリנקレーン)など、お客様のさまざまな課題解決に応えています。



スライドキャリア/スーパーセルフローダ
生産拠点:千葉工場(日本)



船舶専用油圧クレーン
(マリנקレーン)

ZR500MRシリーズ

産業用車両運搬車
(セルフローダ)



SL-155R

軌道陸上兼用車



TM-ZE295DW(S)

車両運搬車
(スライドキャリア/
スーパーセルフローダ)



SS-38F HYBRID

高所作業車

安全性・利便性・快適性を追求する

製品の 特長



高所作業車は「人を乗せて作業する機械」であり、安全性、利便性、快適性がとりわけ重要になります。当社は、先進の制御技術で操作の自動化、操作性の向上、環境性能の向上（低騒音、省エネ、CO₂排出量削減）を推進しています。特に一つのレバーでデッキが垂直移動・水平移動ができる世界初の「4軸協調制御」

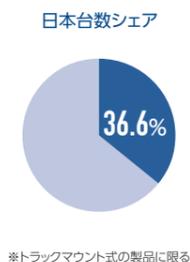
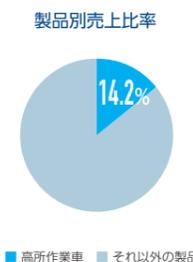
技術を搭載したスーパーデッキは、高所作業車に新しい歴史を開いた画期的な製品として高く評価されています。また、豊富なラインナップでさまざまなお客様の要望にお応えしています。

売上高



インフラ維持管理用途のニーズを背景にしたレンタル業界向け売上に加え、通信業界の設備投資の拡大も

あり、高所作業車の売上高は、過去最高の246億7千8百万円（前期比106.4%）となりました。



トピックス

ブリッジチェッカー (BT) シリーズの 累積販売台数が今夏1500台を突破

当社は、1995年にBT-100を発売以来、高速道路の遮音壁工事や足場の設営・撤去を主とした橋梁点検車の市場を形成してきました。1960年代の高度成長期に建造されたインフラの老朽化が社会問題化するなか、2007年、国交省により「橋梁の長寿命化修繕計画策定事業」が創設されました。これを契機に、2014年には橋梁の定期点検が法制化され、需要は急拡大し、BT販売台数の伸びは顕著になりました。17年度決算では

高所作業車の売上が過去最高となり、BTはその約24%を占めています。現在では、高速道路のオーバー・フェンス工事を主とする「BT-110」、一般道路の橋梁点検を主とする「BT-200」、また大型橋梁に対応する「BT-400」と小型から大型までのラインナップを揃え、国内の橋梁点検車市場では約85%のシェアを誇ります。

LINEUP

スカイボーイ

作業床に2名程度搭乗できるスタンダードな高所作業車シリーズです。トラック式は機動性に優れ、現場間の移動が容易です。ホイール式は走行部分にゴムタイヤを使用しているため走行路盤を傷つけることなく現場内での連続作業が可能で、造船工事などで威力を発揮します。

- ・電気工事用(トラック式)3機種
- ・通信工事用(トラック式)7機種
- ・一般工事用(トラック式)12機種
- ・一般・造船工事用(ホイール式)2機種



スーパーデッキ

最大積載荷重1,000kgの大型作業床が特徴の高所作業車です。機材や資材を積んでの作業に威力を発揮します。独自の4モードコントロールにより、水平・垂直・斜め上下移動が可能。操作性にも優れ、様々な現場で効率的な作業を実現します。

- ・5機種



ハイパーデッキ

地上40mの高さでも作業が可能な超高所作業車です。独自の制御システムで操作性に優れ、目的のポイントにもスムーズにアプローチできます。超高所・超広域での多彩な作業を強力にバックアップします。

- ・1機種



その他目的別製品

高所分野でも、多種多様なニーズに対応する製品を開発しています。例えば、高架道路・橋梁点検車「ブリッジチェッカー」、災害復旧・夜間工事、夜間イベントなどで活躍する照明車「メガルクス」、電柱工事に威力を発揮する穴掘建柱車「ポールセッター」など、安全性や効率を高めて社会やお客様の課題解決に貢献するさまざまな製品を開発し、LEの新たな領域を開拓しています。



高架道路・橋梁点検車 (ブリッジチェッカー)

- ・3機種



穴掘建柱車(ポールセッター)

- ・2機種



照明車(メガルクス)

- ・1機種



その他

サービス力の強化と中古車価値の維持・向上を目指して

売上高



製品の修理や部品販売などのCS(カスタマーサポート)および中古車販売その他の売上高は、ストックビジネスへの取り組み強化により、303億2千4百万円(前期比111.4%)と、過去最高となりました。

その他売上高
(中古車クレーン、その他製品)

年度	下期	上期
15年度	8,795	4,153
16年度	9,117	4,912
17年度	11,122	5,595

(単位:百万円)

その他売上高
(部品、修理他)

年度	下期	上期
15年度	19,288	9,792
16年度	18,095	9,121
17年度	19,201	9,720

(単位:百万円)

製品別売上比率



■ CS、中古車その他の売上 ■ それ以外の製品

当社は「商品力、製品品質、(部品も含めた)サービス力、中古車価値」の四拍子揃ったメーカーを目指しており、新製品の商品力、品質の向上はもとより、未永く製品を活用していただく取り組みも進めています。それが(部品も含めた)サービス力の強化と中古車価値の維持・向上です。

2017年10月にグループの中古車事業統括と戦略立案、ライフ・サイクル・バリュー(LCV)の向上を推進する「LCV推進部」を新設しました。LCV向上への取り組みの1つに保守部品の供給があります。グループの部品供給のハブ拠点である神戸市のグローバルパーツセンターでは、7万を超えるアイテムと、ピース数でおおよそ100万点の部品を保有しており、国際貿易港や国際空港に近い立地を活かして、日本・海外ともにデリバリータイムの短縮を実現しています。日本6カ所の部品センターでは、グローバルパーツセンターとの連携

による最速での部品出荷のほか、永年の実績に基づいて担当エリアごとに需要の多い部品を常時ストックし、製品のダウンタイムの短縮に一翼を担っています。

また再生事業にも注力しています。特殊製品のリニューアル、コンポーネント部品の調整や修理、クレーンフレームの亀裂など構造物修理、生産終了部品の代替により、ダウンタイムの短縮や修理費用の抑制を実現して、製品寿命を長く、価値を維持する取り組みを行なっています。

これら取り組みの成果は徐々に現れており、当社製品の中古車が高く評価されている要因の一つとなっています。



「感動サービスの提供」に向けた取り組み

クレーンのダウンタイムはお客様のビジネスの損失に直結しますので、当社では「こまめやってくれるのか!」と言っていただけの「感動サービスの提供」に取り組んでいます。CS部門のミッションは「お客様の『確実な安全作業』と『商品価値の最大化』のために「感動サービス」をお届けします」。ミッション達成に向け、「ビフォーサービス」「アフターサービス」「安全教育」の3つの分野に注力しています。

ビフォーサービスでは、HELLO-NETを活用した、お客様、サービス工場、当社の3者間でメンテナンス状況や整備履歴を共有する、「タダノメンテナンスパック」や高度化したエンジンのメンテナンスに特化した「TADANOエンジンケアパック」の普及により、製品のダウンタイムや整備不良による事故の減少を目指しています。

アフターサービスでは、日本では10支店と23営業所に加え、全国352か所の認定サービス工場と939名の認定サービス員によるサービス体制を構築しています。海外では直接サービスに加え、100か所を超える代理店が世界をカバーしています。体制の整備とともに進めているのが、サービスの質を高める取り組みです。現地で開催する技術講習会のほか、本社の最新トレーニングセンターでの体系的な教育で、日本・海外のサービス員の人財育成を進めています。

また2018年2月には、VR(バーチャルリアリティ/仮想現実)を活用した体感型の安全教育を導入するなど、作業中の事故防止にも力を入れています。



VR(バーチャルリアリティ/仮想現実)を活用した体感型の安全教育

現場のクレーンとお客様、タダノをつなぐHELLO-NET



通信衛星や携帯端末などを用いてクレーンの稼働状況をリアルタイムで手軽に把握。故障の前兆をキャッチし、事前にメンテナンスする「ビフォーサービス」を可能にします。ラフテレーンクレーンを中心に標準搭載化を進めており、日本で約7,500台、海外では約4,500台が稼働。現在はオールテレーンクレーンや高所作業車へも展開しています。

その他製品



門型油圧リフター(TB-1000)

移動式クレーンや天井クレーンが使用できない屋内設備・クリーンルーム・トンネルなどの特殊な環境においても、重量物の搬入搬出・据付作業などを安全・効率的に実施。



オールテレーンクレーン着脱リフター(ATF400G-6のブーム着脱作業例)